



公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp>

- 継承部会員・平和案内人などの活動を再開！
- 原爆写真展「パノラマで見る被爆後の長崎」
- 被爆75周年ナガサキ ■被爆75周年記念事業「夏の雲は忘れない」
- 「残したいあの日の記憶―執筆補助体験記よりー」 ■国連軍縮週間「市民のつどい」
- 平和案内人第7期生 活動開始！ ■被爆体験の深化講座
- アジア青年平和交流事業発表・審査会 ■来訪者コーナー ■会員の広場
- TOPICS！（SNSで情報を発信しています ほか）



協会公式Instagramへ「未来へ伝えたい被爆者の言葉」として1ヶ月間投稿した青少年ピースボランティア。8月9日の平和祈念式典の際に、平和公園に掲示しました。

新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めながら… 継承部会員・平和案内人などの活動を再開！

継承部会



継承部会員による被爆体験講話は、8月から活動を再開しました。

8月9日の長崎市内の小・中・高校を皮切りに、県外からの修学旅行生などへの講話も少しずつ始まりました。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、原爆資料館・追悼平和祈念館・平和会館内で実施する場合には収容人数を定数の半分に制限し、参加者には事前の検温、手指消毒や間隔を空けての着席、講話後の座席消毒などをお願いする他、継承部会員はマスク等の着用、アクリル板の設置などの対策を講じながらの実施となります。

部会員はマスク等を着用しながらの話方や、マイクの使い方などに慣れない様子も見せながら、それでもようやく再開できた講話に意欲を見せて活動しています。

またこれまで県外で行っていた被爆体験講話会などは、インターネット会議システムを利用したオンライン講話になるなど、新しい形式での被爆体験講話にも取り組んでいます。

平和案内人



平和案内人は、6月から碑めぐりガイドを再開し、資料館常駐ガイドは7月1日、資料館予約ガイドも8月1日から順次開始しました。

平和案内人も、感染予防のため、間隔を空けながらのガイドとなり、ガイドレシーバーや拡声器を用いたり、マスクやフェイスシールドを着用しながらの案内を行っています。ガイド開始前には参加者へ検温や連絡先の記入をお願いすることとなり、また終了後はガイドレシーバー等の消毒を行うなどの作業が増えた他、案内時には準備した資料の見せ方や質疑応答等でこれまでのやり方ができなくなるなど、対応に苦慮する場面もあるようです。平和案内人の活動日誌には戸惑いの声の他、少しずつ戻ってきた来館者に案内ができること、熱心に聞いていただけることに感謝する感想も多く記入されていました。

今後は市内・県内の小中学校の平和学習など、団体を案内する機会も増えてきます。より一層の感染予防に加え、まだしばらく気温が高い日が続くことも予想されることから、水分補給など熱中症予防にも取り組みながら案内する予定です。

原爆写真展「パノラマで見る被爆後の長崎」



7月31日から8月11日まで追悼平和祈念館の交流ラウンジで、写真資料調査部会による原爆写真展「パノラマで見る被爆後の長崎」を開催しました。

今年是被爆75周年を記念する企画を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、間隔を空けながら見ることができたパノラマ写真の展示へ急遽予定を変更しました。通常の写真展ではパノラマ写真は1枚ほどしか展示できませんが、今回は様々な場所から撮影された横幅約5m前後の被爆写真を6枚展示することができ、普段の写真展とは味違ったものとなりました。

2月26日に政府が発表した「文化イベント等の中止、延期または規模縮小等の対応」を受け、当協会では2月29日から継承部会員による被爆体験講話、平和案内人による常駐ガイド、永遠の会の朗読などの活動を休止していましたが、6月1日より少しずつ活動を再開しました。感染予防策を講じながらの、活動をご紹介します。

家族・交流証言者



家族・交流証言者は、6月から活動を再開しました。

市内外での講話や定期講話（毎月第2木曜、第4日曜）では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講話者と聴講者共にマスクを着用し、講話者と聴講者は十分な距離を確保した上で、更に聴講者同士も間隔を空けて着席するなど十分な配慮を行いながら実施しています。

9月19・20日には、例年通り、被爆体験を受け継ぎたい方と、被爆体験を託したい被爆者の方が参加し、話を聞きながらお互いを知る「交流会」を実施しました。交流会後には被爆者からの個別の聞き取りや話し方研修などを実施しますが、この時にも検温や手指・器具の消毒などの対策を行う予定です。

青少年ピースボランティア



青少年ピースボランティアは、6月から活動を再開しました。

例年開催していた8月8・9日の「青少年ピースフォーラム」が今年中止となったことから、新しい活動として継承部会員の被爆体験記「ピーストーク」を読み始めました。その中から心に残った言葉を選び、写真を添えて「未来へ伝えたい被爆者の言葉」として協会の公式Instagramへ7月9日からの31日間、投稿しました。この投稿内容を印刷し、8月9日の平和祈念式典会場で掲示したところ、多くの方が足を止め、見学してくださいました。

「青少年ピースフォーラム」は11月28日（土）にオンラインで開催することが決定しました。規模は縮小となりますが、新しい試みとして取り組む予定です。

被爆体験を語りつぐ 永遠の会



とわ
永遠の会は、6月から長崎市内外への派遣朗読を、8月13日から常駐朗読会を再開しました。

常駐朗読会は感染予防のため、追悼平和祈念館の交流ラウンジに場所を変更し、講話者の前にはアクリル板を設置した上、聴講者は間隔を空けて配置されたソファに掛けて聴いていただくようになりました。これまでは、来館者の希望を受けて随時行っていましたが、原則、土・日・祝日の10時から16時の間に30分間隔で15分程度の朗読となります。

10月からは朗読会「9日を忘れない」を交流ラウンジで再開する予定です。また年に3回行ってきた定期朗読会は、密になる可能性が高いことから、これに代わる、朗読による被爆体験継承の取り組みを計画中です。



また今回は密集・密接を避けるため、部会員による解説ができなくなったことから、8月2日に「オンライン原爆写真展」を実施しました。初めての試みで、写真の見せ方や解説内容などに悩む部分もありましたが、データだからこそその拡大表示でより細部まで見せることができ、松田部会長は「細かい部分を詳しく解説することができた。」と話しました。県外からの参加者も多く、最後の質疑応答では「細かくパノラマ写真を見ることができてよかった」、「いつか長崎を訪れて、実際の資料館を見学したい」などの感想が寄せられました。



被爆75周年ナガサキ

原爆投下、終戦から75年。
 節目となる年ですが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年より静かな日となりました。
 それでも、あちらこちらに平和を願う方の姿がありました。

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

8月9日、被爆75周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が平和公園で執り行われました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参列者が例年の約1割に制限され、遺族や被爆者、68か国の駐日大使など約500人の参列となりました。

田上市長は、原爆投下から75年、核不拡散条約（NPT）発効から50年が過ぎても、核兵器が使用される脅威が現実となっている危機感を訴え、今日まで体と心の痛みに耐えながら被爆体験を語ってきた被爆者に心からの敬意と感謝を込めた拍手を送りました。また世界の人々に対し、平和のために参加する方法は無数にあり、小さな行為でも平和の思いを伝えることはできるので、確信を持って、たゆむことなく「平和の文化」を市民社会に根付かせていこうと呼びかけました。

被爆者の深堀繁美さんは、自らの被爆体験と、もう二度と誰にも体験してほしくないとの思いを語り、昨年長崎を訪問したローマ教皇の「平和な世界を実現するには、全ての人の参加が必要」との呼びかけに多くの方が呼応してくれることを願いました。



長崎平和宣言は、長崎市のホームページからご覧いただけます
<https://nagasakipeace.jp/japanese/peace/appeal.html>

ともしび 平和の灯

8月8日、平和公園内で「平和の灯」が開催されました。

長崎市内の小中学生などが作成し、思い思いの平和のメッセージを書き込んだ約5千個のキャンドルは階段や平和の泉に飾られ、点灯されました。また当日来場者がその場でキャンドルにメッセージを記入するコーナーもあり、家族連れなどが書き込む姿も見られました。

開会式では、実行委員長やV・フアーレン長崎のマスコット、ヴィヴィくんなどによるメインキャンドル点灯やバルーンリリースが行われました。また例年実施される市内小学生等によるコンサートは、新型コロナウイルス感染症予防のため、事前に撮影された映像が放映されました。平和公園が柔らかな光と歌声に包まれる時間となりました。





被爆75周年記念事業 女優たちの原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」2020特別編 in NAGASAKI

8月30日、女優たちの原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」を開催しました。「夏の雲は忘れない」を主催する「夏の会」は昨年、12年間の活動に幕を下ろしましたが、「もう一度、長崎で朗読したい」という出演者の皆さんの熱い思いにより、被爆75周年となる今年、特別公演が決定しました。

今回は特別編として、長崎の被爆者による手記等を中心に脚本が再構成されました。また7月に開催されたオーディションで選ばれた子ども7人は、自宅で練習を重ねて本番に臨みました。

朗読会は、被爆者が描いた絵や当時の写真などを映しながら、マイクを使わずに読み上げました。ホール内に声が響き、会場からは時折すすり上げる声が聞こえました。朗読された手記を書かれた下平（旧姓・川崎）作江さん、山口カズ子さんにもご来場いただき、公演後には朗読を担当した長内美那子さん、池田舞さんが感謝を伝える姿もありました。

終了後、渡辺美佐子さんは「地元の子どもに朗読してもらえてよかった」、高田敏江さんは「これを機に、語り伝えていってほしい」と話されていました。

また朗読ボランティアを行う「被爆体験を語り継ぐ「永遠の会」との交流会を行った他、出演者、スタッフ全員で追悼平和祈念館を訪れ、追悼空間で花を手向けて祈りを捧げました。

子どもたちから一言！

朗読劇に参加した子どもたちから、朗読劇に参加した感想が届きました。抜粋してご紹介します。

- あの時、オーディション参加を辞めないで良かったと心から思います。そして、私も次世代の平和の担い手として、今回の台本も活かしながら、平和活動に自主的に取り組んでいきたいです。(楠山更紗)
- 子ども達が亡くなる前に残した言葉や今も生きている被爆者の体験したことや想いを気持ちを込めて読みました。今、日本は戦争がなくて幸せだけれど、世界のどこかでは今のこの瞬間も戦争があるので、世界から早く戦争や核兵器がなくなってほしいです。今回の朗読劇への出演をきっかけに、今後も平和活動に積極的に関わっていきたいです。(松尾真真)
- 朗読劇に参加して印象に残ったことは、終了後、舞台裏で女優さん達が「子供達の声を聞くと涙が…」と言っていたことです。女優さん達も戦争の恐ろしさを朗読を通して私達に教えてくれました。私達、若い世代が戦争の恐ろしさ、悲しさを学び、平和の大切さを考えて伝えていかなければいけないと思いました。(安部陽香)
- スクリーンに映し出された映像を見ると、寒気がしました。それは現実にあってほしくないような映像があったからです。映し出された人たちの気持ちをたくさんの人に伝え、戦争が二度とない日本・世界を創りたいと思いました。(田淵愛菜)
- 自分が読んだ「私はマリア様といっしょに天国に行きます」という言葉が心に残りました。その子の最後の言葉だから、代わりに大事に伝えようと私なりに心をこめました。(新山叶萌)
- 一つ一つの言葉の悲しさが自分の中に流れ込んできて、なかなか強い声が出ませんでした。しかし、女優の池田舞さんからご指導を頂いて、気持ちを切り替えることができました。きっと、今の私たちと同じように、75年前きらめいて生きていた子どもたちの幸せが、原爆によって一瞬で断たれた無念さを、精一杯伝えることができましたと思います。(宮原華怜)
- 朗読劇に出て、戦争は本当に恐ろしいと言う事と、今が本当に、本当に平和で幸せで、当たり前ではないんだなと思いました。私は、これからの毎日、毎日を大切に、家族や友達との日常を大切にしようと思います。(森珠哩愛)

国連軍縮週間「市民のつどい」



日時 10月24日(土) 10:00～13:00

場所 長崎原爆資料館前 階段下広場

※雨天時は中止します

当協会では毎年、市民大行進に合わせて「市民のつどい」を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、規模を縮小して実施します。

当日、協会の企画などに参加された方へ、プレゼントを準備しておりますので、是非お越しください。

平和推進
協会
コーナー

YouTube
動画
～被爆遺構めぐり～

Instagram
～ピース
ボランティアの
活動紹介～

原爆写真
展示

お問合せ 長崎平和推進協会 ☎095-844-9922

被爆75周年企画展

「残したいあの日の記憶—執筆補助体験記より—」



追悼平和祈念館では、所蔵している体験記を活用し、テーマを定めた体験記企画展を開催しています。今回は、昨年度実施した執筆補助事業で聞き取りを行った体験記を紹介します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、館内展示ではなく、8月から12月までの毎月9日（全5回）に、祈念館ホームページでお一人ずつの体験記を公開します。

第1回（8月9日掲載）赤波江 政子さん

『私の被爆体験記

今でも忘れられない母との別れと悲惨な体験』

第2回（9月9日掲載）源城 房枝さん

『私の被爆体験記 ポーイフレンドとの悲しい別れ』

お問合せ 追悼平和祈念館 ☎095-814-0055

被爆継承をさらに進めていく 被爆体験の深化講座



8月2日、継承部会・継承交流班による第4回「被爆体験の深化講座」を原爆資料館ホールで開催しました。

今回は「被爆者による救援列車の話」と題し、早崎猪之助さん（被爆当時14歳）と築城昭平さん（被爆当時18歳）が登壇しました。爆心地から1.1kmの三菱兵器製作所大橋工場で被爆した早崎さんは、自宅のある島原市へ戻るため救援列車に乗ろうとしたものの、大きな怪我をしておらず、なかなか乗車できなかったこと、ようやく乗れた汽車の中で次々と人が死んでいったことなどを話し、築城さんは、実際に救援列車の運行に関わった人から聞いた話を伝えました。

参加者からは「人が大勢乗っている車内が無音だったという話が、大変印象的だった」などの感想が聞かれました。

平和案内人第7期生 活動開始！



昨年11月29日に育成講座を開講後、新型コロナウイルス感染症予防のため、一部日程を延期していた「第7期 平和案内人育成講座」が7月11日に最後の講座を終え、31人が修了証書を受け取りました。

講座が約4ヶ月間中断したことから、講座終了後も班研修を重ねてきた受講生は、8月22日のオリエンテーションで平和案内人証やユニフォームを受け取り、避難経路の確認などガイドとして活動する際の最終確認を行いました。

第7期生30人は、9月1日から活動を開始しました。初めて活動した辻明彦さんは「何度も研修を重ねていたので、緊張はしなかった。でも実際に案内をしてみて、どこを詳しく説明し、どこを簡単に話すか、説明の内容をちゃんと整理し、調整する必要があると感じた」と感想を話されました。

来訪者コーナー



ふるさと和漢堂
代表取締役 新竹政宏氏

7月13日、ふるさと和漢堂（福岡市）代表取締役の新竹政宏氏が原爆資料館を訪問され、原爆資料館とともに当協会で活動するボランティア（継承部会、平和案内人、永遠の会、青少年ピースボランティア）等にフェイスシールド800枚をご寄贈いただきました。

いただいたフェイスシールドは、新型コロナウイルス感染症の予防として、平和案内人の資料館常駐ガイドなどで早速活用させていただきます。ガイドに使用した平和案内人からは、「締めつけがないし、話しやすい」と好評です。

アジア青年平和交流事業

「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」発表・審査会



9月13日、追悼平和祈念館交流ラウンジで「アジア青年平和交流事業 発表・審査会」を行いました。
「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」をテーマに、長崎の若者による企画を募集したところ、今年は3団体から応募がありました。
発表・審査会では、それぞれの団体がプレゼンテーションを行い、考えた企画を紹介しました。審査の結果、3団体すべてが認定され、審査員を務めた松山忠弘副理事長より、認定証が手渡されました。また審査員からは、企画に対してのアドバイスも送られました。
3団体は、これからそれぞれの企画に沿って事業を進めていきます。3月には成果発表会を実施する予定です。

長崎純心大学 Green Pieces

長崎在住の外国人に「原爆や戦争についてどのような教育を受けてきたか」など、日本・長崎と海外の平和教育の違い、それぞれが考える平和などを英語で聞き取る。聞き取った内容は、Green PiecesのFacebook、大学のホームページなどで紹介する予定。



長崎大学 Peace Caravan隊

オンライン勉強会、原爆資料館見学、被爆遺構めぐりなどを実施し、平和学習に関する動画を作成すると同時に動画作成のための知識向上を目指す。依頼を受けた団体や教育機関に提供できるような動画完成を目標とする。



活水高等学校 平和学習部ふりそでプロジェクト

「ふりそでの少女」についての理解を深めながら、より多く広めるため多言語版パンフレットを作成する。また、ふりそで折り紙の折り方ワークショップの開催、折り紙の折り方の動画やチラシを多言語版で作成し、配信・配布する。



No. 14



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係

連合会長 岩永 洋一

長崎で生まれ、育ち、長崎で働いている中で変わらぬ思いは「平和」への思いです。父は西山町で被爆し、母は小浜町（現雲仙市）で原子雲を見たそうです。当時は空襲警報が鳴ると、迷いもなく防空壕へ逃げ込んでいたと聞きました。今、世界には「1万3410発（RECNA調べ）」の核弾頭が存在しています。数字上は年々減少しているものの、小型化や精度も高まり、核兵器使用の危機も高まっています。被爆者の平均年齢は83才を超え高齢化が進んでいることを思うと、若い世代が核兵器の非人道性と戦争の悲惨さを語り継ぎ、次の世代につなげていくことが大切です。私も本年から平和推進協会の理事、広報委員として、平和推進協会の活動や「平和」に対する思いを発信していきたいと思えます。



Peace Wing Nagasaki

会員の広場



TOPICS! へいわトピックス

SNS（ソーシャルネットワークサービス）で情報を発信しています

当協会では、LINE（毎週月曜日発信）やInstagram（随時発信）などで、活動紹介やイベント等の最新情報をお知らせしています。

新しい取り組みとして、YouTubeに公式チャンネルを開設しました。「ナガサキ被爆遺構めぐり」と題し、平和案内人による原爆落下中心地や平和公園などの碑めぐりの様子を紹介しています。

また、追悼平和祈念館では、公式Facebookページを開始しました。祈念館に関連する情報や取り組んでいる事業などについて、随時お知らせしていきます。

皆様のご登録、どうぞよろしくお願いいたします。



協会
YouTube



祈念館 Facebook

「ヒロシマ・ナガサキ 原爆・平和展」に被爆体験記を提供しました

8月13日（現地時間）、アメリカ・ハワイ州の戦艦ミズーリ記念館で長崎市等が主催する「ヒロシマ・ナガサキ 原爆・平和展」が開会しました。

会場では長崎・広島両市の被爆写真パネルや被災資料等が展示される他、長崎の追悼平和祈念館が提供する被爆者2人の体験記が記された英語資料が配付されます。



（戦艦ミズーリ保存協会 提供）

「長崎原爆遺跡・慰霊碑 長崎の巡り歩き（仮題）」11月末発行予定!

平成17年度に発行・配布した「長崎の原爆遺跡・慰霊碑 ウォークマップ」の写真を刷新し、体裁も新たに「長崎原爆遺跡・慰霊碑 長崎の巡り歩き（仮題）」として発行します。これまで掲載されていなかった碑や新しく建立された碑なども加え、11月末に発行、販売開始予定です。

また「長崎原爆資料館 資料館見学・被爆地めぐり「平和学習」の手引書」も、来年2月頃に改訂版を発行予定です。



（表紙案）

世界の核弾頭の数

	ロシア	米国	中国	フランス	英国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2020年6月1日	～6,370	～5,800	320	290	195	～160	～150	80～90	～35	～13,410

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1,030名
- ◎賛助会員 156名
- ◎学生会員 11名

令和2年9月18日現在

賛助会員（団体法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援ご協力誠にありがとうございます。

寄附者紹介

ありがとうございます

- ◎木下 セツ (敬称略) 一万円
- ◎森田 博満 一万円
- ◎中原 巖 千円
- ◎匿名(四件) 一万五千元

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていただけていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。ご連絡ください。